

1 児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	5年時	6年時		5年時	6年時	
		A	B		A	B
H24 入学 現 5年	55.8 (0.84)			54.2 (0.81)		
H23 入学 現 6年	48.1 (0.77)	69.1 (0.95)	60.3 (1.06)	54.1 (0.83)	74.6 (0.96)	47.1 (1.02)
H28 正答率の全国比		(0.95)	(1.04)		(0.96)	(1.00)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H28正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

<学習状況調査から読み取れる実態>

◇5年は、国語・算数ともに、県平均を大きく下回っている。国語では、漢字を書く力や語句に関する知識の不足が顕著で、読む力にも大きな影響を与えている。児童が目的をもって楽しく学習を進めることができるような言語活動を設定し、その過程の中で言葉や考え方を身に付けていくように、授業を工夫・改善していくことが必要である。また、家庭とも連携し、正確に「話す・聞く」習慣づくりや、読書のジャンルの幅を広げたり質を高めたりして、言葉に数多く触れたり使ったりすることが必要である。算数は、考え方の基本となる基礎的な知識・理解が不足しているため、作業を通して学んだり、イメージを伴うわかりやすい言葉に置き換えたりして、学習内容をしっかり理解していくことが必要である。国語・算数ともに確かな理解の上に、繰り返して習熟していくことが大切である。

◇6年は、国語・算数ともに、学力が向上し、全国並みになっている。特に、B問題（主として活用）の正答率が伸びているのは、日頃から学んだことを生かそうとしている結果といえる。課題としては、正解に近い解答はできていても、解答の条件を満たしていなかったり、正確に伝わらなかったりするものが多かったことがあげられる。問題をよく読んで、質問の条件をふまえて答えたり、質問に応じた適切な言葉を使って正確に答えたりすることが大切である。

<意識調査から読み取れる実態>

◇5年は、県と比較すると将来の夢や目標をもっている児童の割合が低く、平日や休日の家庭学習時間がやや短い。また、自分で計画を立てて勉強している児童が、県が65%に対して本校は35%ほどと低い状態であり、意識調査全体から学習への意欲がある児童とそうでない児童の差が大きいといえる。図書館や図書室を利用している児童は多く、各担任が指導を継続し、図書館の利用の仕方に工夫を加えてきた結果が表れている。

◇6年は、各教科への興味・関心・意欲が高く、家庭でも計画的に学習し、自分の成長を感じながら生活している児童が多い。5年同様、図書館や図書室を利用している児童は多かった。

◇5年は、テレビやゲームの時間が長かったり、寝る時間や起きる時間が定まっていなかったりする児童が多い。成長期の児童にとって、健康的な生活リズムを身に付けることが、心身の成長に大切である。

2 改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

①基礎基本の習得のための工夫

- ・国語・算数科を中心に、習熟度に応じた指導方法や指導体制の工夫・改善を行う。
- ・西部型授業の授業スタイルについて職員間で共通理解を図り、学習のめあてに応じた一貫した指導を継続する。また、児童が学習の流れをつかみ、見通しをもって学習ができるように進めていく。
- ・既習事項や各教科で使う用語を確認し、それらを使って問題解決に取り組ませる。
- ・与えられた条件を満たして考えを整理し、まとめていく活動を、学年に応じて行っていく。
- ・読書や辞書の活用、音読、話し合い等、多くの言葉を使い、習得する機会を作り、言語活動を充実させていく。

②学ぶ意欲の向上のための工夫

- ・授業の中に、様々な学習活動（音読、視写、計算、作図、操作、辞書活用、話し合い、発表、読書等）を取り入れることで、全ての児童にとって楽しい学びがある授業づくりを行う。
- ・学び合いの機会を確保し、内容に応じた学習形態（2人で、グループで、みんなで）で行い、意欲的に学ぶことができるようにする。
- ・ICT機器を効果的に活用し、わかりやすく、児童の学習意欲を高める授業を行う。

③望ましい学習習慣・態度の育成の工夫

- ・立腰教育を基盤にした「学ぶ姿勢」「態度」「返事」を全職員で徹底させていく。

(2)（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・朝の時間は、（月）音読タイム、（火）やる気タイム、（木①）漢字タイム、（木②④・金）計算タイムを実施し、全体の基礎学力の向上を図る。
- ・朝読書や立腰タイムの推進により、学習に向かう姿勢を育てていく。
- ・朝の時間の「音読タイム」「計算タイム」「漢字タイム」の目的や実施計画を職員間で共通理解し、実施した結果を情報交換することによって、基礎的な学力が向上するように改善を加えていく。
- ・読み聞かせの時間や図書委員会の活動とも関連させて指導を行うことで、本のよさにふれさせ、図書館や図書室に足を運ぶ回数をさらに増やす。
- ・放課後30分間の「やる気タイム」は、級外による学年担当を配置し、全職員で個別学習を行い充実させる。また、学力向上強化月間（7・8月、11月、2月）では、保護者や地域の方による学習ボランティアの参加を増やすことで、児童の意欲を高めたり、個別指導が充実したりするように行う。
- ・学力向上だよりを発行して、授業の様子や児童のノートの紹介、学習用具のお願い等、学校の取り組みを紹介することで、家庭との連携をとり、家庭学習の習慣化を図るよう協力体制作りを継続していく。
- ・「学びのすすめ」や「家庭学習のてびき」を活用して学習指導を行ったり、家庭学習のヒントにさせたりすることで、自主学習の習慣化を図り、自分に応じた補充学習ができるようにする。
- ・スマイル学習を充実させ、家庭での予習の習慣化と授業での学び合いの強化・深化を図る。
- ・「生活振り返り週間」「ノーテレビデー」で家庭での学習習慣や生活習慣の実態を把握し、改善に生かしていく。
- ・学校生活の中での様々な場で、自分が感じたことや考えたこと、学んだこと、また、友達や他の方々のよいところや頑張り等を振り返る機会を意図的に作ることで、言語力を高めたり、お互いを認め合ったりする気持ちを育てていく。
- ・地域や社会への関心を高めるために、地域行事を紹介したり、参加を奨励したりするとともに、教師自ら地域行事に出向き、参加した児童を励ます。